

令和7年度 授業改善のポイント

- 1 課題解決に向けた試行錯誤の過程で、言葉による見方・考え方を働かせ、資質・能力を活用・発揮する場面が生まれる言語活動を位置付ける。
- 2 単元において、資質・能力を活用・発揮している児童生徒の姿を、記述や発話等を具体的に想定した上で、適切に評価する。

資質・能力の育成に向け、指導と評価の一体化を図った授業づくり

【指導事例】「扇の的」―「平家物語」から（中学校第2学年）

<育成を目指す資質・能力>

登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈すること。
〔思考力、判断力、表現力等〕
C読むこと(1)イ

<本時のねらい>

「情けなし」は誰がどのような気持ちから発した言葉かについて考えたことを話し合い、考えを広げたり深めたりすることができる。

<言語活動>

「扇の的」を読み、登場人物の言動の意味について考えたことを、根拠を示して説明したり話し合ったりする。

ポイント1 言葉による見方・考え方を働かせ、資質・能力を活用・発揮する場面の設定

【学習課題】「情けなし」は、誰が、どのような気持ちから発した言葉だろうか。



自分の考えを、根拠となる叙述とそこから解釈したことを基に説明しましょう。

言葉による見方・考え方を働かせている生徒の発話例

対句表現に着目すると、「あ、射たり」が源氏に、「情けなし」は平家になると思うな。平家は、源氏の行いを「残酷だ」と感じただろうね。

重要 児童生徒が言葉による見方・考え方を働かせ主体的に課題を解決できるよう、既習事項等を想起させるなどして着目する視点を明確にすることで、言葉の意味や働きを吟味させることが大切です。

僕は、場面の構成に着目したんだけど「平家の方には音もせず」とあるから、ここは平家が言葉を発していない場面。だから、「あ、射たり」も「情けなし」も、どちらも源氏の言葉だと考えたよ。味方であっても非情だと思う気持ちが表れていると思う。

私も味方を射倒された平家の言葉だと思う。物語の展開からも、平家が与一を褒めて舞った男を射た源氏の行為に非難する気持ちを抱くことは、当たり前で自然な流れだと思うな。



「『情けなし』と言ふ者もあり」の中の、「も」の働きに着目すると、源氏の中にも「ひどい行為だ」と思った人がいたという意味にも解釈できるんじゃないかな。

【作者の意図】
作者は「情けなし」の主語を書かなかった。
→平家なら書く必要がないから。
→源氏の中にも「情けなし」と言う人がいたということでは？

【表現】
「とよめきけり」意味：音が鳴り響く
ざわざわと騒ぐ
→「あ、射たり」、「情けなし」以外の源氏の言葉があったと読み取れる。

【構成・展開】味方を射殺された平家が源氏を非難するのは当然だ

【表現】語り手はずっと対句表現を使って表現している



ICT デジタル付箋を活用して個の考えを全体で共有し、互いの考えを比較しながら意見交流を行うことで、考えを深めることができます。着目した視点ごとに付箋を色分けすると、意図的なグループ学習を取り入れることもできます。

ポイント2 ねらいを達成した児童生徒の姿を具体的に想定した適切な評価



話し合いを通して、自分の考えが広がったのではないのでしょうか。話し合ったことを基に、自分の考えとその理由をまとめましょう。

ねらいを達成した生徒の姿を見取るポイント

- ① 考えに対する根拠は適切か
- ② 考えと根拠をつなぐ「理由（解釈）」は妥当か
- ③ グループや全体での話し合いの内容を踏まえた考えの深まりがあるか

【評価場面の精選】

学び合いの後、個に返す活動を設定することで生徒は思考を整理することができる。個の記述や発話等から、考えの変容を見取り評価する。

まとめ 【「おおね満足できる状況」(B)を想定して教師が作成した記述例】

始めは「情けなし」は、味方を殺された悲しみや源氏を非難する気持ちから発せられた平家の言葉だと思っていました。しかし、グループでの話し合いから、義経の命令を非情だと思う気持ちから発せられた源氏の言葉だと考えるようになりました。

理由は、「平家の方には音もせず」から平家方が静まりかえっていた様子を、「とよめきけり」から源氏方が騒いでいた様子を読み取ることができ、また、「もんの働き」からも、この場面では、「あ、射たり」と「情けなし」は、どちらも源氏の言葉だと考えたからです。